

総合科学部生が選ぶ

総合科学推薦図書

ここで紹介する図書は、34〜35ページの、吉田光演先生が行われた総合科学研究プロジェクト「総合科学の到達点と課題」で新書・文庫の目録評価を元に挙げてみます。一年生は、後期から展開研究に取り組むことになりました。ぜひ、参考にしてみてくださいでしょうか。

環境

坂田俊文『地球 ポピュラーサイエンス』丸善 1993

学生のコメント 改めて考えると、私が持っている地球に関する知識は以外に少ないと気づき、自分が生きているこの場所についてもっと知りたいと感じた。環境問題について考える際にも役に立つ本ではないかと思う。

基礎科学

長谷川眞理子『科学の目科学の心』岩新 1999

学生のコメント 根っからの理系でもなく文系でもないと自称する生物学者の著者が、クローン羊から虫の子育ての話しまで多様な話題を展開していて、新しい科学と人間と社会の関係を考えることができそうな本。また、エッセイ調なのがとっつきやすそう。

宗教

生駒孝彰『インターネットの中の神々 21世紀の宗教空間』平凡社新書 1999

学生のコメント 現在、宗教はインターネットというテクノロジーの内部で、どのような宗教空間を開きつつあるのか。宗教王国アメリカを中心に、二十一世紀の宗教の形を探る。インターネットでつながる希薄な個のつながりが、どのような宗教・信仰の形を描くのか。人目に触れずにネット空間だけで進行してしまう宗教現象に注意を払わずにいるのは、大変危険であると思う。

歴史・地理

小林章夫『コーヒー・ハウス 18世紀ロン

ドン、都市の生活史』講談社学術文庫 2000

学生のコメント コーヒーハウスの歴史を通して、ロンドンの姿と市民生活を描いた本。十七〜十八世紀イギリス史、都市史、庶民の生活史などの参考になりそう。

教育論

鈴木鎮一『愛に生きる 才能は生まれつきではない』講談社新書 1986

学生のコメント 才能は育てられるものという強固の信念を持った著者による体験的才能教育論。才能は生まれつきのものではないという言葉に希望を感じる。

大学論

増田四郎『大学でいかに学ぶか』講談社新書 1983

学生のコメント 著者の体験談を交えつつ、学生本来のあり方を提言した本。今の学生生活に疑問を感じている人にお勧め。

心理学

河合隼雄『影の現象学』講談社文庫 1987

学生のコメント 第一・二章は十九世紀に

ドイツで書かれた小説の登場人物の分析を通じて、「影」の性質を記述しているが、やや読みにくいと思われる。特に面白いと感じたのは後半、第四章で影の逆説と題された部分である。特に、絶対王政時代のヨーロッパにおいて常に王の傍らに置かれた「道化」の存在とは、王が自らの絶対性を輝かせるために、自分の影の部分を肩代わりさせる必要があったことから生まれた、との記述が最も興味深かった。

医療

出口頭『臓器は「商品」か 移植される心』講談社新書 2001

(学生のコメント) 日本でも数年前に脳死者からの臓器移植が可能になった。移植を受けた患者は、他人の臓器が移植されたことをどう感じているのだろうか。この本は、臓器移植を「思想」として捉えていて、とても興味深い。

生活術

植村達男『時間創造の達人 知的情報活用のすすめ』丸善 1996

自分のやりたいことに専念するための時間

を、「情報の収集・整理・活用」によって作り出す術を紹介している。やりたいことの多い学生にびつたりだと思つ。

精神論

市川浩『身 の構造 身体論を超えて』講談社学術文庫 1993

学生のコメント 「空間が次第に均質化してきて、『身体は宇宙を内臓する』という身体と宇宙の幸福な入れ子構造が解体していく今日・・・」である。少し前の時代まで、あるいは少し以前の歳、までは、空間も時間も均質ではなくて、伸び縮みしていたように感じられる。時間があつという間に過ぎたり、長々と感じられるように、空間も近くなつたり遠くなつたりしていると感じられ、信じられた頃があつたのだろう。宇宙が何万メートル先の具体的な真空と捉えられ、人間の身体が筋肉と線維と血管、頭脳と胴体と手足、中枢と末端と自律神経として捉えられるようになってしまった現在では、「身」という言葉自体がどこか哲学あるいは宗教みを帯びて感じられてしまつ。身体を超えた錯綜対としての 身 を追求する書。解説者が河合隼雄である。

作文法

山内志郎『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書 2001

学生のコメント 「いい論文を書く」という発想を逆転し、「論文は手法である」と定義して、大学入試の小論文、授業でのレポート、卒業論文までを視野にいれ、多くの具体例を挙げて評価・解説していく形式で書かれた本である。丸呑みにして割り切るのもよし、これを踏み台にして高みを目指すのもよし、いずれにしても実践の役に立つのは間違いない。